

講義名	対)観光経営学			
担当教員	田辺 文彦			
開講期・曜日・時限	前期集中 その他 その他	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

2016年から夏期短期集中講義として実施6年目です。

2020年は、新型コロナ禍に始まり、新型コロナ禍に終わった年でした。しかし、これは大きな試験であると共に、日本だけでなく世界の地域や産業が、これまでの序列がリセットされ、新たなスタートラインに同時に立つというチャンスの始まりかもしれません。ここでは、コロナ禍後の世界の外部環境変化を見据えて、経営の観点から私たちはどのように生き抜くべきかという姿勢で、授業を進めます。

到達目標

- ・新型コロナ禍とは何か、その後の外部環境変化を理解できるようになる
- ・その外部環境変化に対する対応策を自力から検討できるようになる
- ・これらの対応策を身近な場面を想定しながら、企画提案に結び付けられるようになる

提出課題

テーマ毎に課題提出
講義 板書メモを作成、提出
演習 演習課題を行い、提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出した課題は、次の時間にフィードバックを行う。

評価の基準

毎回の課題提出・毎日の宿題提出（50％）、総合演習レポート（試験に当たる）（50％）
レジュメ・課題資料持ち込み可のため、保管しておくこと。

履修にあたっての注意・助言他

講義れば短期間に効率的に単位が取得可能
奮い闘を、一課に乗り切りましょう。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

資料は、授業時にレジュメを配布
参考文献としては、広く世界で用いられかつ最新の改訂がなされているものとして、ツーリズムについて、
Charles R. Goeldner, J. R. Brent Ritchie "TOURISM Principles, Practices, Philosophies (12th Edition)" JOHN WILEY & SONS, INC, 2011

授業計画

1. イントロダクション
2. 経営学で交流活動としての観光を考える
3. 文化交流のブランド化（ローマの事例）
4. 同演習
5. 交流ビジネスの経営戦略（トラベルエージェンツの事例）
6. 同演習
7. アートツーリズムの未来（ベネッセ直島の事例）
8. 同演習
9. 滞在拠点と交流の未来（ホスピタリティビジネスの事例）
10. 同演習
11. 都市交流レジャー開発の未来（飯急の事例）
12. 同演習
13. 移動手段と交流の未来（モビリティビジネスの事例）
14. 同演習
15. 最終レポート作成演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回毎に
授業前：事前の調べもの（旅の組み立て）に関する素材の検索（120分）
授業後：旅の組み立てと高図としての企画作成に関する作業（120分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

(1) 「ネアカのひのびへこたれず」の精神をもった人材 コロナ禍でも観光振興を行う気持ち
(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 新たな価値提案の実践
(3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 今までにない旅の提案
(4) 自主・自立の精神を持った人材 旅コピペのレポート作成

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ICT活用による、調査実施。
課題のための検索、調査実習

実務経験の有無及び活用

実務経験有り。
担当教員は、民間シンクタンクにおいて20年間の企業、国・自治体に対する調査およびコンサルタント経験を有する。

備考

各自、体調管理に気をつけて、元気に履修しましょう。
連絡は、田辺文彦宛にメールで tana.fun1.kb@gmail.com
新型コロナウイルス感染症の感染者、濃厚接触者等で、通学困難となった場合は別途個別に指示します。